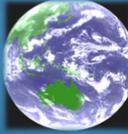


国際比較から見る 男女の役割意識



政治学科 3年 田部井滉平、岡田あかり
国際政治経済学科 3年 菅原綾子、今川梓

発表の流れ

- ◆ テーマ設定のきっかけ
- ◆ 先行研究
- ◆ リサーチクエスト
- ◆ 仮説 (モデル)
- ◆ データ
- ◆ 分析結果
- ◆ 結論



テーマ設定のきっかけ

- ◆ 早稲田大学 教員採用における男女平等宣言 (2014年7月4日施行)
- ◆ 安倍政権による2014年中の女性活用政策の新法案提出
- ◆ 男女平等指数 日本は142カ国中104位
- ◆ 内閣府や厚生労働省による働き方に関する委員会の発足例)
 - ・ 男女共同参画会議「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) に関する専門調査会」
 - ・ 「仕事と生活の調和推進委員会」

先行研究

- ◆ World Values Survey(世界価値観調査)を用いた
実証研究:労働・幸福・リスク

土岐智賀子 畠山洋輔 李秀眞 松田典子 見田朱子 佐藤慶一 田辺俊介 寺地幹人 豊田義博 山崎聖子 SSJDA-40 March 2009

「性別役割意識」

「アジア 諸国が高く、欧米諸国は低いという傾向が顕著である。日本は、経済の成熟度に比して、性別役割意識がまだ根強いと見るべきだろう」 (15頁)

リサーチクエスト

何が男女の役割分化の意識に 影響を与えるのか？

役割分化の意識とは：性別に基づき、役割を分けようとする意識

World Values Surveyを用いて、
各国の回答を国際比較していく



仮説 (モデル)

教育程度

人口統計的要因

社会的態度

男女の役割分化の意識

$$Y(\text{gender role}) = \beta_0 + \beta_1 \text{education} + \beta_2 \text{sex} + \beta_3 \text{age} + \beta_4 \text{job} + \beta_5 \text{children} + \beta_6 \text{marriage} + \beta_7 \text{immigrant} + \beta_8 \text{life} + \epsilon$$

仮説と作業化

- ◆ 従属変数 男女の役割分化の意識

Q1: 大学教育は女性より男性にとって重要であるか?

Q2: 男性の方が女性より仕事において重役に就くことが適しているか?

7

作業仮説

男女の役割分化の意識

$$Y(\text{gender role}) = \beta_0 + \beta_1 \text{education} + \beta_2 \text{sex} + \beta_3 \text{age} + \beta_4 \text{job} + \beta_5 \text{children} + \beta_6 \text{marriage} + \beta_7 \text{immigrant} + \beta_8 \text{life} + \epsilon$$

8

作業仮説

男女の役割分化の意識

$$Y(\text{gender role}) = \beta_0 + \beta_1 \text{education} + \beta_2 \text{sex} + \beta_3 \text{age} + \beta_4 \text{job} + \beta_5 \text{children} + \beta_6 \text{marriage} + \beta_7 \text{immigrant} + \beta_8 \text{life} + \epsilon$$

9

仮説と作業化

- ◆ 仮説1: 男女の教育程度が高い程、男女の役割分化の意識が低下する

独立変数 教育程度

10

作業仮説

男女の役割分化の意識

$$Y(\text{gender role}) = \beta_0 + \beta_1 \text{education} + \beta_2 \text{sex} + \beta_3 \text{age} + \beta_4 \text{job} + \beta_5 \text{children} + \beta_6 \text{marriage} + \beta_7 \text{immigrant} + \beta_8 \text{life} + \epsilon$$

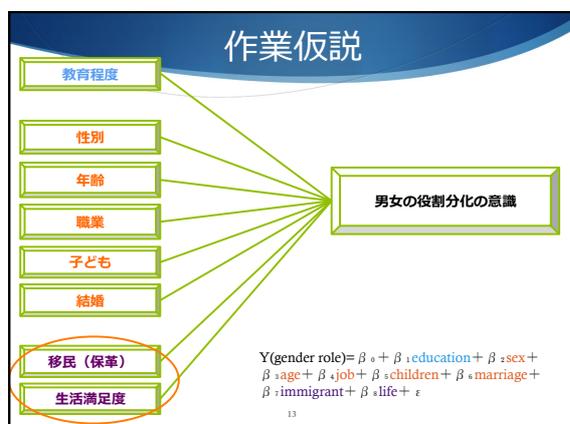
11

仮説と作業化

- ◆ 仮説2: 人口統計的要因(社会学的)が、男女の役割分化の意識に影響を与える

独立変数 性別、年齢、仕事、結婚、子ども

12



仮説と作業化

- ◆ 仮説3：社会的態度が、男女の役割分化の意識に影響を与える

独立変数 移民受け入れへの態度（保革）
生活満足度

14

分析の手法

- ◆ World Values Surveyのwave4とwave6を使用
- ◆ 5ヶ国を選定し、分析した

【分析対象国】
Japan, South Korea, USA, Sweden, Spain

- ◆ 重回帰分析を行う

15

使用データ

- ◆ wave1:1981年～1984年…実際の調査が行われていないため、wave1は省略
- ◆ wave2:1990年～1994年
- ◆ wave3:1995年～1998年
- ◆ **wave4:1999年～2004年**
- ◆ wave5:2005年～2009年
- ◆ **wave6:2010年～2014年**

約10年間の観察

16

分析の手法

- ◆ World Values Surveyのwave4とwave6を使用
- ◆ 5ヶ国を選定し、分析した

【分析対象国】
Japan, South Korea, USA, Sweden, Spain

- ◆ 重回帰分析を行う

17

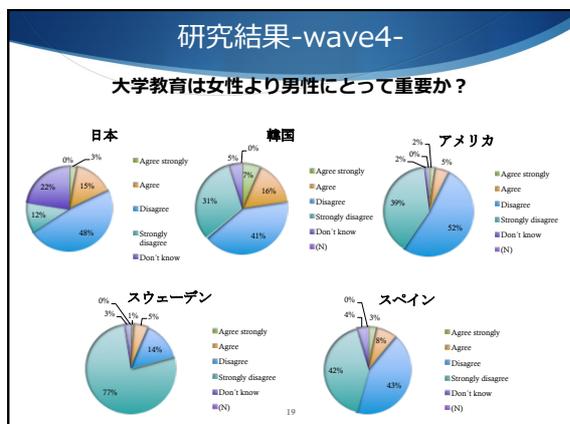
OECD加盟国

OECD加盟国：34か国

EU加盟国（21か国）
イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フィンランド、**スウェーデン**、オーストリア、デンマーク、**スペイン**、ポルトガル、ギリシャ、アイルランド、チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロヴァキア、エストニア、スロベニア。

その他（13か国）
日本、**アメリカ合衆国**、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ニュー・ジーランド、スイス、ノルウェー、アイスランド、トルコ、**韓国**、チリ、イスラエル

18



研究結果-wave4-

大学教育は女性より男性にとって重要か？

	日本	韓国	アメリカ	スウェーデン	スペイン
性別	0.184(0.048)***	0.270(0.053)***	0.208(0.040)***	0.131(0.041)***	0.123(0.047)**
教育	0.236(0.052)***	0.071(0.059)	0.223(0.043)***	-0.271(0.310)	0.123(0.072)
年齢	-0.007(0.002)***	-0.012(0.003)***	-0.007(0.001)***	-0.003(0.001)	-0.007(0.002)***
仕事	0.061(0.050)	-0.000(0.055)	-0.006(0.041)	0.087(0.041)*	-0.029(0.052)
子供	-0.006(0.017)	-0.003(0.035)	-0.003(0.013)	0.017(0.018)	0.002(0.018)
結婚	0.049(0.055)	-0.117(0.075)	-0.104(0.041)*	0.014(0.045)	0.029(0.052)
移民	0.212(0.034)***	0.173(0.054)***	0.050(0.021)*	0.150(0.031)***	0.020(0.026)
生活満足度	0.020(0.011)	0.016(0.011)	0.019(0.011)	0.010(0.011)	0.029(0.013)*
R ²	0.1453	0.1023	0.0785	0.0516	0.0416
補正R ²	0.1373	0.0956	0.0720	0.0437	0.0344
回帰式の標準誤差	0.634	0.833	0.649	0.619	0.739
観測数	868	1088	1159	966	1074

P>|t| ~0.001 *** ~0.01 ** ~0.05 * 表内の数字は回帰係数、括弧内の数字は標準誤差を表している。

研究結果-wave4-

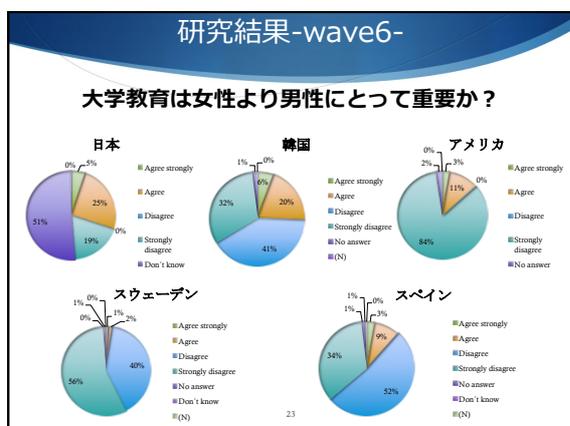
大学教育は女性より男性にとって重要か？

	日本	韓国	アメリカ	スウェーデン	スペイン
性別	0.184(0.048)***	0.270(0.053)***	0.208(0.040)***	0.131(0.041)***	0.123(0.047)**
教育	0.236(0.052)***	0.071(0.059)	0.223(0.043)***	-0.271(0.310)	0.123(0.072)
年齢	-0.007(0.002)***	-0.012(0.003)***	-0.007(0.001)***	-0.003(0.001)	-0.007(0.002)***
仕事	0.061(0.050)	-0.000(0.055)	-0.006(0.041)	0.087(0.041)*	-0.029(0.052)
子供	-0.006(0.017)	-0.003(0.035)	-0.003(0.013)	0.017(0.018)	0.002(0.018)
結婚	0.049(0.055)	-0.117(0.075)	-0.104(0.041)*	0.014(0.045)	0.029(0.052)
移民	0.212(0.034)***	0.173(0.054)***	0.050(0.021)*	0.150(0.031)***	0.020(0.026)
生活満足度	0.020(0.011)	0.016(0.011)	0.019(0.011)	0.010(0.011)	0.029(0.013)*
R ²	0.1453	0.1023	0.0785	0.0516	0.0416
補正R ²	0.1373	0.0956	0.0720	0.0437	0.0344
回帰式の標準誤差	0.634	0.833	0.649	0.619	0.739
観測数	868	1088	1159	966	1074

P>|t| ~0.001 *** ~0.01 ** ~0.05 * 表内の数字は回帰係数、括弧内の数字は標準誤差を表している。

-分析結果の解釈-

- スウェーデン、スペインではモデルの当てはまりが弱い
→欧州の国では男女共同参画が進んでいる
(別の要因が影響している)
- 日本、アメリカ、スウェーデン、韓国では、保革位置(移民)が保守に寄るほど役割分化の意識が強くなる



研究結果-wave6-

大学教育は女性より男性にとって重要か？

	日本	韓国	アメリカ	スウェーデン	スペイン
性別	0.117(0.035)***	0.198(0.049)***	0.242(0.027)***	0.129(0.035)***	0.041(0.044)
教育	0.165(0.041)***	-0.013(0.054)	0.165(0.028)***	0.113(0.038)***	0.133(0.084)*
年齢	-0.010(0.001)***	-0.009(0.002)***	-0.003(0.001)***	-0.004(0.001)***	-0.003(0.002)
仕事	0.045(0.028)	0.136(0.053)	0.043(0.028)	0.005(0.037)	-0.047(0.050)
子供	0.057(0.018)*	-0.096(0.030)***	-0.050(0.009)***	0.008(0.016)	-0.024(0.021)
結婚	0.277(0.043)	0.140(0.062)*	-0.020(0.030)	0.035(0.039)	0.094(0.049)
移民	0.158(0.029)***	0.010(0.040)	0.079(0.018)***	0.083(0.023)***	0.019(0.025)
生活満足度	-0.001(0.001)	0.008(0.013)	-0.003(0.007)	-0.004(0.010)	0.013(0.013)
R ²	0.1112	0.0953	0.0876	0.0488	0.0187
補正R ²	0.107	0.0889	0.0842	0.0430	0.0115
回帰式の標準誤差	0.657	0.803	0.610	0.568	0.719
観測数	1553	1149	2160	1123	1082

P>|t| ~0.001 *** ~0.01 ** ~0.05 * 表内の数字は回帰係数、括弧内の数字は標準誤差を表している。

研究結果-wave6- 大学教育は女性より男性にとって重要か？

変因	日本	韓国	アメリカ	スウェーデン	スペイン
性別	0.117(0.035)***	0.198(0.049)***	0.242(0.027)***	0.120(0.033)***	0.041(0.044)
教育	0.180(0.041)***	-0.013(0.054)	0.166(0.028)***	0.112(0.038)***	0.183(0.084)*
年齢	-0.010(0.001)***	-0.009(0.002)***	-0.003(0.001)***	-0.004(0.001)***	-0.003(0.002)
仕事	0.045(0.038)	0.136(0.053)*	0.043(0.028)	0.005(0.037)	-0.047(0.050)
子供	0.037(0.018)*	-0.096(0.030)***	-0.030(0.009)***	0.006(0.016)	-0.024(0.021)
結婚	0.277(0.043)	0.140(0.062)*	-0.020(0.030)	0.035(0.039)	0.094(0.049)
移民	0.189(0.029)***	0.010(0.040)	0.079(0.016)***	0.088(0.023)***	0.019(0.025)
生活満足度	0.001(0.001)	0.008(0.013)	-0.005(0.007)	-0.004(0.010)	0.013(0.013)
R ²	0.1112	0.0953	0.0876	0.0488	0.0187
補正R ²	0.107	0.0889	0.0842	0.0420	0.0115
回帰式の標準誤差	0.637	0.803	0.610	0.568	0.713
観測数	1553	1143	2180	1123	1092

P>| | ~0.001 *** ~0.01 ** ~0.05 * 表内の数字は回帰係数、括弧内の数字は標準誤差を表している。

-分析結果の解釈-

- 日本、アメリカ、スウェーデン、スペインでは、教育程度が高いほど役割分化の意識が低下する
- 日本、韓国、アメリカ：universityのwave4では、子供が有意でないがwave6では揃って有意となっている

日本：子供が多い→役割分化の意識が低い
 アメリカ、韓国：子供が多い→役割分化の意識が強い（特にアメリカ）

各国育児休業の取得状況

第18表 育児休業の取得状況

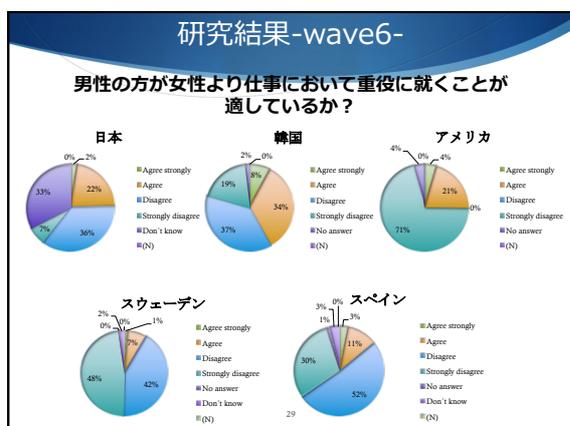
日本	アメリカ	スウェーデン
・出産した女性労働者の56.4%、男性の0.42%が取得。 ・取得者の男女比は女97.6%、男性2.4%。	・家族および医療休暇取得者のうち女性16.0%、男性の13.9%が育児を理由に取得。	・女性はほぼ完全取得。 ・取得者の男女比は女性約64%、男性約36%。

(備考)
 1. 日本は、厚生労働省「女性雇用管理基本調査」(平成11年)より作成。5人以上規模事業所の1999年度データ。
 2. アメリカは、労働省「2000 Survey of Employees」より作成。2000年のデータ。
 3. スウェーデンは「Women and Men in Sweden - Facts and Figures 2000」より作成。1999年のデータ。

-分析結果の解釈-

- 日本、韓国、アメリカ：仕事、子供、結婚などの要素が役割分化の意識に影響を与えている（特に韓国）
- しかし、欧州の国では影響を与えていない

(スウェーデン：university wave4の仕事は例外)
 →日本、韓国、アメリカの制度的遅れ？

研究結果-wave6- 男性の方が女性より仕事において重役に就くことが適しているか？

変因	日本	韓国	アメリカ	スウェーデン	スペイン
性別	0.121(0.037)***	0.214(0.050)***	0.314(0.028)***	0.201(0.040)***	0.197(0.045)***
教育	-0.028(0.043)	-0.073(0.054)	0.103(0.030)***	0.151(0.044)***	0.188(0.084)*
年齢	-0.011(0.001)***	-0.015(0.003)***	-0.000(0.001)	-0.004(0.001)**	-0.004(0.002)*
仕事	0.069(0.040)	0.023(0.054)	0.031(0.030)	0.022(0.043)	0.011(0.051)
子供	0.005(0.019)	-0.041(0.030)	-0.020(0.010)*	0.026(0.019)	-0.016(0.022)
結婚	0.141(0.048)*	0.095(0.062)	0.000(0.031)	0.009(0.045)	0.088(0.050)
移民	0.229(0.030)***	0.177(0.040)***	0.133(0.017)***	0.152(0.029)***	0.053(0.025)*
生活満足度	-0.001(0.006)	0.007(0.013)	0.008(0.008)	-0.001(0.012)	0.007(0.013)
R ²	0.1267	0.1120	0.0940	0.0791	0.0444
補正R ²	0.1219	0.1057	0.0906	0.0724	0.0371
回帰式の標準誤差	0.654	0.805	0.646	0.65	0.724
観測数	1451	1141	2143	1113	1065

P>| | ~0.001 *** ~0.01 ** ~0.05 * 表内の数字は回帰係数、括弧内の数字は標準誤差を表している。

研究結果-wave6- 男性の方が女性より仕事において重役に就くことが 適しているか？

	日本	韓国	アメリカ	スウェーデン	スペイン
性別	0.121(0.037)**	0.214(0.050)**	0.314(0.028)**	-0.201(0.040)**	0.197(0.045)**
教育	-0.028(0.043)	-0.073(0.054)	0.103(0.030)**	-0.151(0.044)**	0.188(0.084)*
年齢	-0.011(0.001)**	-0.015(0.003)**	-0.000(0.001)	-0.004(0.001)**	-0.004(0.002)*
仕事	0.069(0.040)	0.023(0.054)	0.031(0.030)	0.022(0.043)	0.011(0.051)
子供	0.005(0.019)	-0.041(0.030)	-0.020(0.010)*	0.026(0.019)	-0.016(0.022)
結婚	0.141(0.046)**	0.085(0.062)	0.000(0.031)	0.009(0.045)	0.088(0.050)
移民	0.229(0.030)**	0.177(0.040)**	0.133(0.017)**	-0.152(0.029)**	0.053(0.025)*
生活満足度	-0.001(0.009)	0.007(0.013)	0.008(0.008)	-0.001(0.012)	0.007(0.013)
R ²	0.1267	0.1120	0.0940	0.0791	0.0444
補正R ²	0.1219	0.1057	0.0906	0.0724	0.0371
回帰式の標準誤差	0.654	0.805	0.646	0.65	0.724
観測数	1451	1141	2143	1113	1065

表内の数字は回帰係数、括弧内の数字は標準誤差を表している。

-分析結果の解釈-

- ◆ 韓国では教育程度が高いほど役割分化の意識が低いとは言えない
→文化的、伝統的背景が強い
- ◆ スペイン以外の国：生活満足度は、役割分化の意識に関係がない

まとめ（考察）

- ◆ スウェーデン、スペインなどの欧州：性別、年齢以外の社会的要素が役割分化の意識に影響を与えていない

↓

日本、韓国、アメリカ：仕事、子供、結婚などの社会的要素が依然として影響を与えている

→欧州に対して制度的遅れをとっていることが関係していると推測される

まとめ（考察）

- ◆ 日本や韓国：社会・文化的伝統に支えられた意識（儒教、家父長制など）の影響があり、役割分化の意識は払拭しがたい面もある

しかし、世界の趨勢と時代の流れに合う形で制度を充実させることで、性別による役割分化の意識は弱めるのではないかな？

参考文献

- ◆ “World Values Survey”
<http://www.worldvaluessurvey.org/wvs.jsp>
(2014/7/31 アクセス)
- ◆ 土岐智賀子 畠山洋輔 李秀眞 松田典子 見田朱子 佐藤慶一 田辺俊介 寺地幹人 豊田義博 山崎聖子
「World Values Survey(世界価値観調査)を用いた：実証研究：労働・幸福・リスク」(2009)

参考文献

- ◆ 「男女共同参画白書 平成22年度 第1部 男女共同参画社会の形成の状況」
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h22/zentai/index.html
- ◆ 「男女共同参画白書 平成24年度 第1部 男女共同参画社会の形成の状況」
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h23/zentai/index.html
(2014/10/15 アクセス)

